

ガ行音の習得 –スピーチ発表の分析から–

加藤扶久美

要 旨

富山大学留学生センターの大学院入学前予備教育日本語研修コースに在籍した日本語ゼロ初級レベルの学生を対象にして、同じ日本語音声環境において、ガ行音の習得がどのようになされていくのかについて調べてみた。まず、発音の手本となる日本語教科書『みんなの日本語 初級Ⅰ』付属テープの「ガ行音」の発音について調べ、次に学生のスピーチ発表の録画テープの「ガ行音」がどのように発音されているかについてまとめてみた。手本となるべき教科書テープに一貫性がないことや、学生によって濁音だけしか発音しなかったり、鼻濁音と濁音を両用していたりしている。この調査をもとにして、今後、学生の母語との関係や、日本語を教えている教室の中で、教授者がどのような意識でどのように「ガ行音」を発音しているのかについても調査を続けていきたい。

【キーワード】 ガ行音の習得、日本語ゼロ初級レベル、日本語教科書テープ、ガ行濁音、ガ行鼻濁音

1 はじめに

富山大学留学生センターでは、大学院入学前予備教育日本語研修コースを1999年10月に1期を開講し、2002年3月に5期を終了している。この日本語研修コースでは15週間の日本語集中授業を行い、2つの能力別日本語クラスを編成している。各期には必ず日本語ゼロ初級レベルの学生を対象とした初級クラスを開講している。コースが始まって約5か月後に、それぞれの専門課程に進む前の段階で、「私の専門」という題で自分の専門の内容について日本語で簡単に説明するスピーチ発表を行っている。

初級クラスで使用するテキストは『みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ』（スリーエーネットワーク）である。コース開始時にテープレコーダーを1人に1台貸与して、『みんなの日本語』付属カセットテープ教材を予習・復習・宿題の際、くり返して聞くように指導している。また、授業の時には、独自開発教材『リズムで学ぶ日本語発音あいうえお』を使った発音練習がなされている。

日本語ゼロ初級レベルの学生にとっての発音モデルで、くり返し聞きながら練習できるものは、これらの教科書テープと発音教材であると言ってもよい。

このような日本語音声環境で、ガ行音がどのように習得されていくのか、『みんなの日本語 初級Ⅰ』カセットテープと「私の専門」スピーチ発表の録画ビデオテープで調べてみることにする。すなわち、助詞「が」と語中・語尾の「ガ行音」について、ガ行濁音が使われているのか、ガ行鼻濁音が使われているのかについて調査する。ここでは、ガ行濁音を「ガ、ギ、グ、ゲ、ゴ」、ガ行鼻濁音を「ガ、ギ、グ、ゲ、ゴ」と表示することにする。

2 『みんなの日本語 初級Ⅰ』カセットテープにおけるガ行音の発音

『みんなの日本語 初級Ⅰ』カセットテープは全部で4巻ある。そこには、本冊巻頭の「日本語の発音」、第1課から第25課までの語彙・文型・例文・練習C・会話・問題が収録されている。そして、「みんなの日本語初級Ⅰカセットテープ使用説明書」の「Ⅱ. 発音・アクセント・イントネーション」では、「収録にあたっては共通語のアクセントとイントネーションを採用し、語彙の部分はアクセントと明確な発音を、また語彙・文型・例文・練習C・会話の部分はより自然な会話のリズムとイントネーションを習得できるように、配慮しました。」と記載されている。

学生が自主学習の時にモデルとしているテープの中身が、使用説明書に記載されているように、共通

語で明確な発音で録音されているとすれば、助詞「が」と語中・語尾の「ガ行音」は鼻濁音で発音されていると推測される。

ここでは、まず「語彙」の部分調べてみる。そして、その語彙の発音を規範と考えて練習した場合に矛盾のある部分があるかどうかを調べる。最後に、質問と答えのような対になっている会話等について調べる。

2.1 新出語彙

助詞「が」と語中・語尾の「ガ行音」は、ほとんどが、共通語のガ行鼻濁音になっている。しかし、「日本語の発音」の大阪アクセント以外で濁音になっている部分は、共通語の枠からはみ出ている、ガ行濁音とガ行鼻濁音とを聴き分ける能力のある学生を混乱させる要素になる可能性がある。ここでは、ガ行濁音になっている部分を取り出してみることにする。

- | | |
|----------|--|
| I 日本語の発音 | りん「ゴ」、おん「ガ」く (大阪アクセント) |
| 12課 | す「ゴ」いですね |
| 13課 | おなか「ガ」すきました、おなか「ガ」いっぱいです、
のど「ガ」かわきました |
| 19課 | おか「ゲ」さまで |
| 21課 | す「ゴ」い、しかた「ガ」ありません |
| 25課 | かん「ガ」えます、りゅう「ガ」くします |

2.2 新出語彙と文型の単語の発音が異なるもの

新出語彙のガ行の発音が鼻濁音であるのに対して、文型の中でのガ行の発音が濁音になっている単語が見られる。

- | | |
|----|--------|
| 7課 | あ「ゲ」ます |
|----|--------|

2.3 新出語彙と例文の単語の発音が異なるもの

新出語彙のガ行の発音が鼻濁音であるのに対して、例文中の単語のガ行の発音が濁音になっているものが見られる。

- | | |
|-----|---|
| 2課 | か「ギ」(例文8) |
| 4課 | でんわばん「ゴ」う(例文6) |
| 5課 | ろく「ガ」つ(例文6) |
| 8課 | --はい、に「ギ」やかです。(例文1)
--どんな えい「ガ」ですか。(例文6) |
| 11課 | 3か「ゲ」つ(例文6) |
| 13課 | かい「ギ」(例文3) |
| 16課 | 背「ガ」高くて(例文4) |

2.4 新出語彙と会話の単語の発音が異なるもの

新出語彙のガ行の発音が鼻濁音であるのに対して、会話中の単語のガ行の発音が濁音になっているものが見られる。

- 5課 つ「ギ」の
- 11課 1か「ゲ」つ「グ」らい
- 14課 しん「ゴ」う

2.5 新出語彙と練習Cの単語の発音が異なるもの

新出語彙のガ行の発音が鼻濁音であるのに対して、練習Cの中での単語のガ行の発音が濁音になっているものが見られる。

- 1課 さくらだい「ガ」く, 失礼です「ガ」
- 4課 でんわばん「ゴ」う
- 5課 せん「ゲ」つ, さん「ガ」つ, つ「ギ」
- 6課 えい「ガ」, て「ガ」み,
- 11課 4日「グ」らい
- 12課 6「ガ」つ, 8「ガ」つ, 1「ガ」つ
- 17課 め「ギ」ます, うわ「ギ」, した「ギ」
- 22課 め「ガ」ね

2.6 質問と答えでガ行の発音が異なるもの

質問と答えでガ行の発音が異なるものがあり、一方は濁音で、もう一方は鼻濁音になっているものがある。

- 8課
 - ・大阪は に「ギ^o」やかですか。
 - …はい, に「ギ」やかです。(例文1)
 - ・きのう えい「ガ^o」を 見ましたか。
 - …どんな えい「ガ」ですか。(例文6)
 - ・だい「ガ^o」くの 寮
 - だい「ガ」くの寮は どうですか。(練習C 1 2)
- 10課
 - ・庭に だれ「ガ」 いますか。
 - …だれも いません。 猫「が」 います。(例文3)
- 12課
 - ・日本料理の中で 何「ガ^o」 いちばん 好きですか。
 - …てんぷら「ガ」 いちばん 好きです。(例文8)
 - ・ 6「ガ^o」つ
 - 6「ガ」つが いちばん いいですよ。(練習C 3, 1)
 - ・ 8「ガ^o」つ
 - 8「ガ」つが いちばん いいですよ。(練習C 3, 2)
 - ・ 1「ガ^o」つ
 - 1「ガ」つが いちばん いいですよ (練習C 3, 3)
- 22課
 - ・め「ガ」ねを かけて います
 - め「ガ」ねを かけて いる 人です。(練習C 2-1)
- 23課
 - ・100メートル「グ」らい 歩きます
 - 100メートル「グ」らい 歩くと (練習C 3- 3)
- 24課
 - ・～お母さんに 何を して あ「ゲ^o」ますか。

--ピアノを 弾いて あ「ゲ」ます。(例文3)

・ あり「ガ」とう ございます。

--あり「ガ」とう ございます。(練習C 1)

25課 ・日本人は グループ旅行「ガ」 好きですね。

-- ~ わたしは グループ旅行「ガ」 きらいです。(例文8)

2.7 問題点

『みんなの日本語 初級 I』カセットテープにおけるガ行音の発音に関しては、テープ使用説明書で共通語を採用していることを明示しているにもかかわらず、助詞「が」と語中・語尾の「ガ行音」が、鼻濁音でなく濁音で発音されている箇所が数多く観察された。

これは、発音している人が、無意識のうちに、自分自身の母語であると推測される濁音で発音してしまったとしか考えられない。学生にとっての教科書付属テープは、第一の手本となる。テープ編集者は、一貫性をもってテープ収録をする必要があるのではなからうか。

3 『リズムで学ぶ日本語発音あいうえお』におけるガ行音の指導について

『リズムで学ぶ日本語発音あいうえお』では、第7回 ガ行・ガ行(鼻濁音)、第43回 ナ行とガ行(鼻濁音)及び第44回 ガ行とガ行(鼻濁音)で練習するようになっている。また、「教師用指導の手引き」では、第7回で「ガ行鼻濁音を全く使わない人も増えてきているが、規範的なものを旨とし、ここではガ行鼻濁音も練習する。鼻濁音とそうでないのとを教師が発音し、聞いてわかるようにする。」と書かれており、「コラム-ガ行音について-」では、「鼻濁音を徹底して練習させることの弊害を、タイ語母語話者を例にとって」考察されている。

このように「規範的なものを旨とし」、教室におけるガ行音の発音に関しては、助詞「が」と語中・語尾の「ガ行音」は鼻濁音「ガ^o、ギ^o、グ^o、ケ^o、ゴ^o」が使われていると推測される。だが、発音練習、教科書の模読、日本語での指示の際、教科書付属テープと同様に必ずしも一貫性がなく、時には「ニホンゴ」と「ニホンゴ^o」が混在している可能性があることも否めない。

4 スピーチ発表における学生のガ行音の発音

富山大学留学生センターの大学院入学前予備教育日本語研修コースでは、日本語を学び始めて約5か月後に「私の専門」という題でスピーチ発表を行う。学生たちはそれまでに学習してきた日本語の能力を出しきって、自分の専門の内容について説明する。このスピーチ発表の時に、ガ行音がどのように発音されているか、日本語ゼロ初級レベルの学生21人の録画ビデオテープを聴取して、まとめてみることにする。

4.1 ガ行濁音だけを使用している者

3期に1人(メキシコ人)、4期に4人(中国人2人、スリランカ人、モルドヴァ人)、5期に1人(スリランカ人)で合計6人いた。4期の5人のうち4人がガ行濁音を使用していることが特徴的であるが、その原因はつかめていない。

4.2 ガ行鼻濁音とガ行濁音の両方を使用している者

1期に3人(インドネシア人、タイ人、フィリピン人)、2期に6人(タイ人2人、コンゴ人、インドネシア人、モンゴル人、ブータン人)、3期に2人(タイ人、中国人)、4期に1人(タイ人)、5期に3人(中国人2人、フィリピン人)で、合計15人いた。

この中で、鼻濁音を助詞「が」にだけ使用している者が10人で、語中・語尾の「ガ行音」も鼻濁音で発音しているのは、1期のインドネシア人の「チョーポー」(調合)、3期のタイ人の「セーヤクガイシャ」(製薬会社)、4期のタイ人の「セーヤクガク」(製薬学)と「右ガワ」(右側)、5期のフィリピン人の「ダイガク」(大学)と「キョードーガクシュー」(共同学習)である。また、1期のタイ人だけは、助詞「が」も語中・語尾の「ガ行音」も鼻濁音で発音する方が多く、「ミノガセナイ」(見のがせない)、「ロクガツ」(6月)、「ジューガツ」(10月)、「タイゴ」(タイ語)という語が観察された。

5 まとめと今後の課題

教科書テープの鼻濁音の発音には一貫性がなく、スピーチ発表の録画テープを調べて得られた資料には、「ガ行音」を、濁音だけを使用して発音している学生と鼻濁音と濁音の両方を使用して発音している学生が観察される。

鼻濁音の方を多く使用するのが1期のタイ人で、濁音だけを使用するのが4期の4人である。鼻濁音と濁音の両方を使用する4期のタイ人は、助詞の「が」の発音をすべて濁音で発音している。4期の特異性の原因は何か、これからの課題である。

これらの結果をもとに、教科書テープ聴取時間との関係、学生の母語との関係、そして日本語教授者の教室での「ガ行音」の発音がどのようになされ、その発音が意識的になされているのかについても調査していきたい。

参考文献

- (1) 小西光子・後藤寛樹・松岡裕見子・要門美規(2001)『リズムで学ぶ日本語発音あいうえお』(独自開発教材)
- (2) 陣内正敬(1996)「鼻持ちならない?ガギゲゴ--『ガ行鼻濁音』の行方」『月刊言語』1996年6月号 pp.34-35
- (3) スリーエーネットワーク(1998)『みんなの日本語 初級I』
- (4) 文化庁(1984)『日本語教育指導参考書I』大蔵省印刷局